

早期発見でガンから身を守る ガン検診

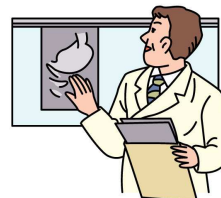
健康エクスプレス No. 81

日本では国を挙げてガン対策に取り組んでいます。治療法が日々進化している現在であっても、ガンから身を守るためには早期発見が大切です。今回はガン検診についてご紹介します。

国を挙げてのガン対策

(1) 増加を続けるガン患者

今や日本では、ガン患者は年間140万人に達し、ガンによる死亡者数は年間30万人を超えています。ガンは他の病気による死亡原因を上回って第1位となっており、人の一生においてガンに罹る可能性は男性が約2人に1人、女性が約3人に1人と推定されています。そのため、日本政府では「がん対策基本法」(2006年成立)を定めて、総合的かつ計画的なガン対策が開始されています。



(2) 低いガン検診の受診率

右表の調査結果が示すように、世界の主要先進国において日本はガン検診の受診率が低い国といわれています。世界的にガン患者の治療成績は良い方向に向かっています。その理由として、ガン治療薬、医療機器、治療方法自体の進化のほかに、ガン検診の受診者が増加した結果、進行していないガンの発見と早期の治療が可能になったこともあるといわれています。したがって、ガンから身を守るためには早期発見、早期治療が大切です。「がん対策基本法」に基づいて定められた「がん対策推進基本計画」では、2007年から5年以内に『ガン検診の受診率50%以上』が達成目標の一つになっています。

	乳ガン検診①	子宮頸ガン検診①	大腸ガン検診②
日本	23.8%	24.5%	24.9%
韓国	33.6%	40.6%	34.1%
米国	72.5%	83.5%	52.1%
英国	70.5%	78.5%	—
オランダ	88.1%	66.8%	—

①OECD発表(2009年)

②独立行政法人国立がん研究センター
がん対策情報センター『がんの統計'09』

ガン検診の利用について

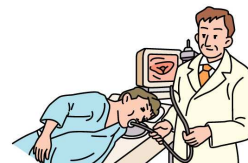
(1) 地方自治体が行うガン検診

ガン検診は健康保険適用とならず、費用は原則として全額自己負担となります。しかし、職場などでの検診がない方を主な対象者として、国のガン対策に基づき、市区町村が費用の一部を負担して行うガン検診があります(右表参照。本人の負担額は市区町村で異なる)。特に、女性特有のガン(子宮頸ガン、乳ガン)については、他のガン検診に比べるとさらに受診率が低いため、検診費用の無料クーポン券(特定年令の女性限定)が各市区町村から配布されています。詳細については市区町村から告知されます。

	対象年齢	受診間隔	検査項目・方法
胃ガン	40才以上	年1回	問診及び胃部エックス線検査
大腸ガン	40才以上	年1回	問診及び便潜血検査
肺ガン	40才以上	年1回	問診、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診
乳ガン	40才以上	隔年1回	問診、視診、触診及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ)
子宮ガン(子宮頸ガン)	20才以上	隔年1回	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診

(2) さまざまなガン検診

本来であれば全身の各臓器・部位についてガン検診を受けることが望ましいのですが、検診にかかる費用は多額となります。一方、現在のガン検診の中には、検診の精度や妥当性が十分確認されていないもの、費用対効果が良好とはいえないもの、などがあります。しかし、最近では、複数の部位のガン検診も同時に行う人間ドック、PET(※)という方法を利用した全身のガン細胞を調べる検査など、ガンの発見が目的の検診を行う医療機関も多くなっています。こうしたガン検診は費用が自己負担で高額となりますが、健康に気遣う人や家族にガン患者がいた人などに利用されています。健康保険組合や勤務先などで行われる健康診断のオプション(別途費用)として、内視鏡や超音波エコー等の精度が高い機器を使用したガン検診、ガン細胞によって生産された血液中の物質を調べるガン検診(腫瘍マーカー、代表例は前立腺ガン)なども同時に受けられる医療機関も増えてきました。ガンが気になる人は健康診断と併せて、ガン検診の受診をお勧めいたします。



※PET=微量の放射線を放出する物質を人体に注射し、その物質を取り込んだガン細胞から放出される放射線を体外から撮影して、ガン細胞の有無や大きさを調べる検査方法。

《皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当: 八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL: 03-3582-4511